

# デジタル紙芝居『太郎と食べ物大王』のシナリオ



1



太郎君は、お菓子の大好きな1年生です。

いつもお菓子ばかり食べているので、ご飯の時は大変です。お父さんとお母さんが、いつもつきっきりでご飯を食べさせます。

父「太郎、さあ、晩ご飯だ。今日のおかずは、ハンバーグだよ。とってもおいしいぞう。ほら、こっちにはオムライスもあるぞ」

太「いやだよ。そんなの、おいしくないから食べたくないよ。お菓子の方がずっといいや」

母「太郎ちゃん、そんなこと言わないで、食べましょうね。野菜サラダはさっぱりしておいしいわよ。お母さんが、太郎ちゃんのために作ったんだから、食べてちょうだい」

太「食べたくなんかないや。だって、ぼく、野菜なんか嫌いだもん。嫌いなものを食べたら、気持ちが悪くなるもん」

いつもこの調子です。お母さんが太郎君のことを考えてご飯を作るのに、嫌いなものがあると行ってなかなか食べません。

ところが、そんなある日、太郎君のところに・・・

2



王「こら、太郎！」

大きな体の食べ物大王が現れて、太郎君をつかまえました。

王「お前は何だ！ いつもご飯を残してばかりではないか」

太「だ、だ、だって、き、嫌いなものばかりなんだもん」

王「何を言うか。お母さんが、お前の体のことを考えて、いろいろと作ってくれているというのに、残してばかりで。それなら、お前を喰ってしまうぞ！」

太「や、や、やめろよう。嫌いなものを食べたって、全然栄養なんてないじゃないか。気持ちが悪くなるんだからね」

王「ようし、そうか。それなら、これから、食べ物について三つの問題を出すから、二つ以上答えられなかったら、お前を食べてやるぞ。いいか、よく考えるのだぞ」

太「う、うん」

3



王「第一問。人の体の血や肉や骨を作る食べ物は何だ？」

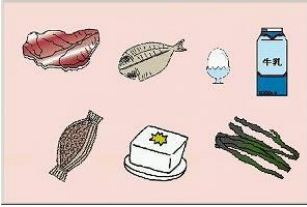
太「えー、そんなの、あるの？」

王「あるではないか。赤の食べ物だ」

太「ああ、そう言えば、赤の食べ物って、聞いたことがあるけどなあ。なんだったかなあ」

王「どうやら、分からないようだな。答えは・・・・・・」

4



王「卵や肉，魚，牛乳，それから・・・」  
 太「あっ，思い出した。豆腐に納豆，それから，海草もだ」  
 王「ん，そうだが，もう遅いは。では，第2問」

5



王「体の調子を整える食べ物は何だ？」  
 太「ええ？ 体の調子を整える？ それ，どういうこと？」  
 王「ああ，そうか。体の調子を整えるというのは，例えば，病気になりにくいこととか，きちんとうんこが出ることとかだよ」  
 太「ええ，それなら，さっきは赤の食べ物だったから，緑の食べ物かな」  
 王「おお，そうじゃ。例えば，どんな食べ物があるのじゃ？」  
 太「えええとう，あっ，わかった」

6



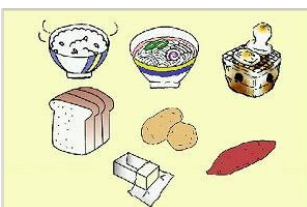
太「ほうれん草やレタス，ニンジン，ダイコン。それから，嫌いなピーマンやタマネギもだ。だから，その他の野菜もそうだよ」  
 王「その通り！ 他にもあるかな？」  
 太「野菜の他にもう？ そうだ，果物もでしょ。果物もだから，リンゴやミカン，ブドウ。それから，嫌いなシイタケもだね」  
 王「お，いいぞ！ よく分かったな。では，第3問。最後の問題だぞ。これが分からなかったら，お前を喰うからなあ。よく考えるのだぞ」

7



王「体の熱や力のもとになる食べ物は何だ？」  
 太「もう分かったよ。黄色の食べ物でしょ？」  
 王「その通り！ 例えば，どんな食べ物じゃ？」  
 太「黄色の食べ物はねえ，確か・・・」

8

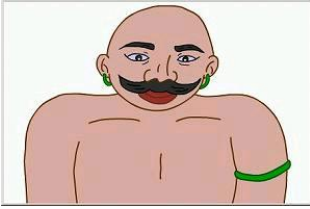


太「ご飯にうどん，お餅」  
 王「あとは？」  
 太「嫌いなパンに，ジャガイモ，サツマイモ。それから，バターとかもだったかな」  
 王「その通り，よくできたのうう。二つの問題ができたではないか」

9



王「なあ，太郎。お前は食べ物のことをよく知っているではないか」  
 太「はい」  
 王「お前はさっき，嫌いな食べ物には栄養がないと言ったが，どうじゃ？ 本当にそうか？」  
 太「いいえ，違います。嫌いな食べ物にも，いろんな栄養があつて，体の



役になっています」

王「そうだろう。では、これからは出されたものをきちんと食べるか？」

太「んー、だいじょうぶかなあ。やっぱりご飯よりお菓子の方がいいような気がするけどなあ」

王「じゃあ、他の者にも聞いてみよう」

王「教室のみんな。みんなは、どうじゃな？ 嫌いな食べ物にも栄養があって、体のために役に立っているのじゃが、絶対に食べないかな？ それとも、少しずつでもがんばれるかな？ 食べ物大王からの挑戦状に答えてみるのじゃ」